

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、自動車・自転車小売業が大きく悪化傾向を弱めたほか、繊維・衣服・身の回り品小売業、飲食料品小売業、書籍・文房具小売業、木材・建築材料小売業でも悪化傾向を弱めました。一方、家庭用機械・電気機械器具小売業、医薬品・化粧品小売業、燃料小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業、その他小売業では悪化傾向を強めました。全体としては、-58と前期より2ポイント悪化傾向を弱め、緩やかな回復への動きとなっています。売上額は-39と6ポイント、収益は-41と10ポイント上昇し、減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格は-14と1ポイント下降し、わずかながら下降傾向を強め、仕入価格は11と9ポイント上昇し、上昇傾向を強めました。在庫は-4と8ポイント下降し、不足傾向に転じました。資金繰りは-34と4ポイント上昇しましたが、依然窮屈感は続いています。残業時間は-15と4ポイント上昇し、減少傾向を弱めました。人手は3と4ポイント上昇し、過剰に転じました。設備の状況は-15と2ポイント下降し、不足感が強まりました。設備投資については、車両を中心に13%の先が実施し、前期より2ポイント増加しました。

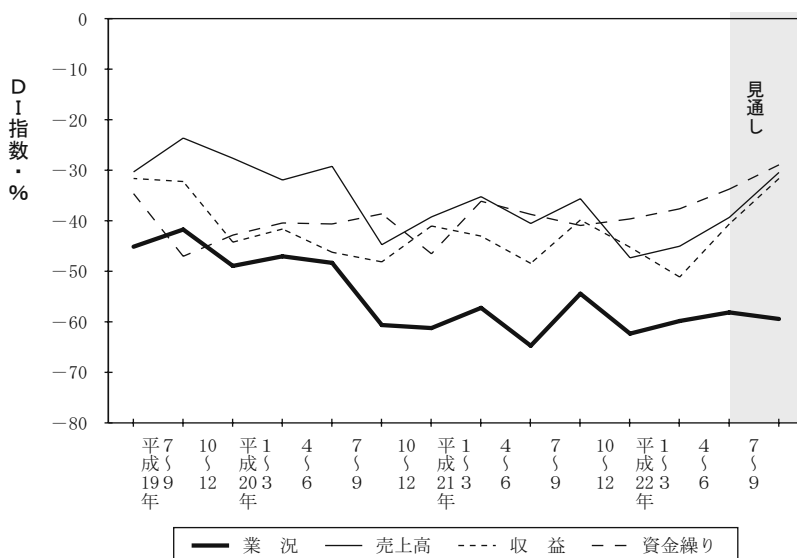
来期の見通し

業況は、木材・建築材料小売業が前期に続き悪化傾向を弱めるとみえており、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業、その他小売業は悪化傾向を弱めるとみえています。一方、他の小売業は悪化傾向を強めるとみえており、全体的には-60と2ポイント下降し、緩やかながら悪化傾向を強めそうです。売上額は-31と8ポイント、収益は32と9ポイント上昇し、減少傾向を弱めそうです。価格面では、販売価格は-20と6ポイント、仕入価格は-5と6ポイント下降し、下降傾向に転じるとみえています。在庫は-9と5ポイント下降し、不足感は続きそうです。資金繰りは-29と5ポイント上昇するとみえていますが、窮屈感は続きそうです。残業時間は-17と2ポイント下降し、減少傾向は強まるとみえています。人手は5と2ポイント上昇し、過剰感が強まりそうです。設備の状況は-16と1ポイント下降し、わずかながら不足感が強まり、設備投資については、車両を中心に13%が実施予定とし、横ばいで推移するとみえています。

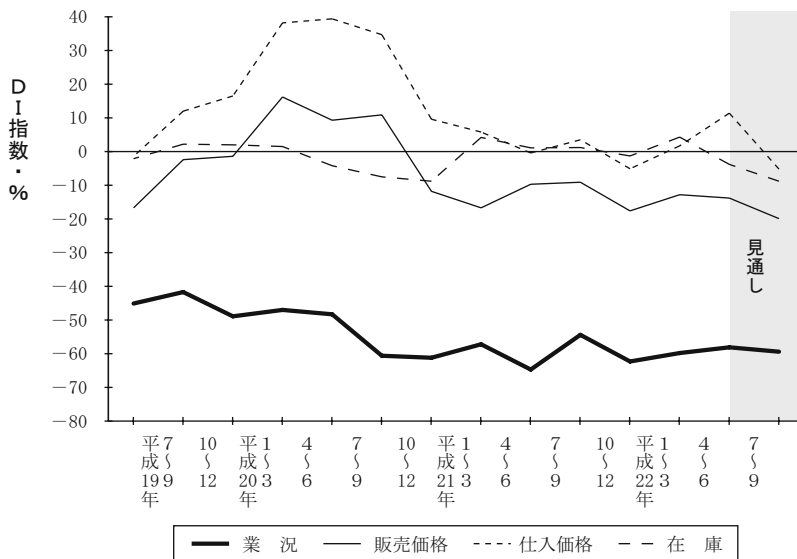
調査員のコメント

- 前期に比べて売上・収益ともに変化なし。今後は経費削減や営業時間を延長し、収益の増加につなげる。(種苗・花小売業)
- 新規開拓により、売上の増加を図り、また社員教育にも力を入れる。(LPガス、石油製品小売業)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(22年4月~6月) / 前期(22年1月~3月)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40
繊維・衣服・身の回り品	業況	● → ○														
飲食料品	業況	● → ○														
書籍・文房具	業況	● → ○														

経営上の問題点	1位	64%
	2位	34%
	3位	32%

当面の重点経営施策	1位	64%
	2位	43%
	3位	32%

* ()は前回順位